宇都宮市教育センター **かすたネット通信** 第４４号

令和6年5月7日発行
発行者 所長 飯田 高広

その指導に愛はあるか　教育愛とは何か

愛着の問題を取り上げた第34～40号(38号を除く)は反響が大きく，その内容に合致する子の対応に苦戦する学校の実情が感じられました。

愛着の問題を(も)抱えている子は，常に**愛情飢餓**の状態にあるため，“今”を凌ぐための**愛情のエネルギー**を得ようと，自分が気になる人の注意を引き，かかわってもらうために手段を選ばず困った行動に出やすいものです。

対応については39･40号で概略を述べましたが，かかわりを通して**子どもが教師の愛情を感じ取っているか**，そもそも**教師の側に，その子に供給すべく愛情があるのか**が根本の問題として問われてきます。

教師の愛情については，**教育的愛情**や**教育愛**との表現で，教師に求められる資質・能力とされていますが，その説明を求められて答えるのは難しいのではないでしょうか。広島大学の白石崇人(しらいし たかと)准教授は，自身のブログで次のように記していて参考になります。

> 教育愛とは，教育関係における愛であり，異性愛とも，母性(父性)愛とも，宗教的愛とも違うものです（それぞれが重なり合うことはあるでしょう，たとえば教育愛と母性愛など)。
>
> - 教師が被教育者へ自主的・積極的にかかわろうとする気持ち
> - 被教育者の幸福のために，能力を引き出し，引き上げようとする気持ち
> - 先人と我々が積み上げてきた文化を伝え，我々の社会へと導こうとする気持ち
> - 被教育者が愛を知り，他へ愛を抱くように導いていく教育方法
> - 教師をして，様々な困難を乗り越えて教育へと向かわせる動力源，エネルギーの源
> - 教師を教職に永く就かせ，教職の専門性を高める原動力
>
> 教育は，教育対象に対する深い理解を基礎としながら，現在と将来との利益・幸福を目指して行う，人間と人間とのコミュニケーション。相手を思いやらなければ，教育は成立しない。被教育者を思いやらなければ，教師は務まりません。知識や技術だけでは，権威だけでは，教師は務まりません。(一部抜粋)　「教育愛とは何か　教育史研究と邦楽作曲の生活」で検索

子どもが直接的に求めるのは母性愛かも知れませんが,「教育愛と母性愛などは重なり合うことはあるでしょう」(上記[　　]内の２行目）としているのは興味深く，考えさせられます。

因みに愛情の対義語は日本語的には“憎悪”です。何とも不穏な言葉ですが，教師に無縁な感情とは言い切れません。例えば虐待を受けている子やマルトリートメントの状態に置かれてる子は，教師が「憎たらしい！」と怒りに駆られるような挑発的な行動で煽ってくることがあり，対応に追われ続けるうちに，その子への憎悪の感情が生じやすくなります。人としては自然な反応ですが，**子どものペースに巻き込まれている**との認識が教師には必要です。自身のネガティブな感情に気付き，自らの行動が影響を受けていないか，ここでも**メタ認知**が大事になってきます（校内の組織的な対応による教師相互のサポート体制が前提です)。

また，1986年にノーベル平和賞を受賞したユダヤ人作家 エリ・ヴィーゼルは，「**愛の反対は無関心である**」と述べました。学校・教師としてできる指導の体制・手立てを尽くさないまま，無関心すなわち関心の対象外に切り捨てようとする“排除の論理”に基づく考え方や対応に違和感を覚える感性も，専門職たる教師に必須の資質能力と言えます。

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山･大瀧）
TEL 639−4392